

aun's news

VOL. 31
2022年
3月号

アウンズニュース 沼津版 (毎月1日発行)

発行:株式会社アウンズ・ヤナギハラ 沼津支社



静岡県立沼津工業高等学校ボート部

グラウンドや体育館では味わえない風や水を感じられるのが魅力

沼津工業高校ボート部は、2年生5人、1年生2人の部員7人。艇庫は香貫大橋南の狩野川左岸にあり、部員は香貫山を自転車で山越えして集まる。冬は主に陸上トレーニングに取り組むが、水に入れば半日で16~18キロ漕ぐ。「負けない心」「ボートを楽しむ」を合言葉にインターハイ出場を目指す。

シングルスカルで全国高等学校選抜ボート大会(3月19~21日)出場を決めているのが佐々木吾瀧さん(2年)。県大会1位、1000㍎の自己ベストは3分41秒。「全国1位になる力はないが、相手の強さや情報を持ち帰り、部員のためになりたい」と話す。県大会は1000㍎で競ったが、全国大会は距離が2000㍎。「持久力はあると思うので1000㍎より有利と思いたい」とも。



部長は高村峻さん(2年)。中学では陸上部だったが体験入部でボートの楽しさを知り入部した。「『自分で考えて行動する』がモットー。グラウンドや体育館では味わえない風や水を感じられるのが魅力。映画を見たり、温泉に行ったり部員は仲がいい」と話す。

顧問の植松聖陽教諭(31)は沼津工業高校ボート部OB。高校時代は選抜大会で全国4位、国体で全国5位の実績がある。「風や波など予測がつかない中で自分で考えて対応しなければならない。それで生徒が成長できるスポーツ」と語る。また「全国大会に出場して自分がいかに周囲に支えられていたかが分かった。今の生徒にも、体験させたい」と話す。

(毎日新聞沼津支局 石川宏)